

## 「出題の意図」

選抜区分	2020年度（選抜区分：一般選抜 後期日程） 文学部人間関係学科（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p><b>1. 出題の背景・求める能力</b></p> <p>後期日程の試験科目である集団討論は、数人の受験生による与えられた討論テーマに基づいての討論である。テーマを設定した討論場面において、自分自身の見解をテーマに沿って論理的・独創的に表現できる能力、情報提供や意見調整など円滑なコミュニケーションを進める能力、集団の中で適切なかたちでリーダーシップを発揮していきける能力などが求められる。</p> <p><b>2. 解説(解法)</b></p> <p>今年度の集団討論は、1 試験室につき受験者 6～5 名、4 つの試験室で同時に進行し、それを 4 回繰り返す形で進めた。各回に共通する 4 つの討論テーマを使用した。以下に各回のテーマごとに解説する。</p> <p><b>【集団討論 1 回目】</b></p> <p>解説：「読書の意義や必要性」が討論テーマである。大学生の読書離れが進んでいる。進学するほど読書離れの傾向がある。高校時代に読書をしていない人は大学でも読書をしない傾向がある。そうした調査結果を討論の手がかりとして紹介した。討論では、読書の意義を語り、深めることができないグループもあった。</p> <p>読書離れが課題という視点だけでなく、なぜ読書離れが進むのかの時代背景や、その積極面に注目するなど多様な視点から捉えることが必要である。人間関係学科では、学際的・総合的な視点が必要となり、テーマに示された手がかりを、どのように解釈して深めていくのかが採点上の重要なポイントである。</p> <p><b>【集団討論 2 回目】</b></p> <p>解説：「ゲーム依存に関する自治体や各国の動向について」を討論テーマとした。世界保健機関の「ゲーム障害」の認定や、自治体のゲーム依存予防の条例、精神疾患としての認定に対する各国の動向を紹介し、こうした状況や動向についてどのように考えるかを討論として求めた。ゲーム依存の予防や対策についての意見が多かったが、規制の是非や範囲について議論になるグループもあった。個人や社会の背景についての意見は少なかった。</p> <p>個人の見解に注目しているのではなく、集団でテーマを深めていく、考察を発展させていきけるかを見ている。意見を引きだし、テーマに沿って多様な視点で深めていきけるか、ステレオタイプでなく、独創的な意見や、それも含めたコミュニケーション力についても採点上の重要なポイントとしている。</p>

### 【集団討論 3 回目】

解説：「キャッシュレス決済の社会動向」を討論テーマとした。キャッシュレス進展の動向に関して、個人や社会の対処についての討論を求めた。

デメリットや普及促進の視点での意見が多く、意見は出てくるが深めていけないグループがあった。テーマの前提は意識できても、テーマとして示された情報や関連する情報からテーマを深めるという視点も大切である。進展する背景や理由について考えてみるなど、動向を客観的に捉えようとする視点も求められる。多様な視点を探りながら、論点を見出していくことも集団討論に求めている。多様な意見を出すだけでなく、それらを整理し、まとめていくことも採点上のポイントとしている。

多様な視点が出ることによって、テーマから討論が離れていくこともあるので、テーマを意識して討論を深めていけるかが採点上の重要なポイントである。

### 【集団討論 4 回目】

解説：「「スポーツ嫌い」「運動嫌い」を減らす方策」を討論テーマとした。

「スポーツ基本計画」の数値目標を紹介し、手がかりとして示した。アイデアや意見は多く出されたが、整理したり、深めたりすることはできないグループがあった。新鮮なアイデアを出せるかではなく、状況をどのように捉え理解するか、その上で有効な方策を探ることを求めている。個人面接ではなく、集団討論で採点を行っているため、求める能力を踏まえて準備しておくことが必要である。

集団討論は、テーマを読んで考えた後に自由討論となるため、その進行の在り方により討論に影響が出てくる。他者の意見を踏まえて議論を整理する、議論を展開させる提案や、状況に応じた修正・改善を図るなどグループでの討論が活発に行われ深めていけるよう経験を積んでおくといいい。集団討論を円滑に行っていく、深めていけるかも採点のポイントである。

\*\*\*\*\*

#### ➤ 受験生への情報提供

普段の生活や社会の動きの中から問題点をみつけ、それを言葉にする練習をしておくことと集団討論の時に役立つと思います。また、それを友達と話し合ってみるのも良いと思います。自分の意見を持つ、他者とやりとりすることで、多様な視点を理解し獲得することや、問題の捉え方について深めていくことが求められます。